



2022年11月25日

各 位

会社名 神戸天然物化学株式会社
代表者名 代表取締役社長 宮内仁志
(コード番号 6568 東証グロース)
問合せ先 取締役管理本部長 栗山康秀
(TEL. 078-955-9900)

(訂正)「2023年3月期第2四半期決算補足説明資料」の一部訂正について

2022年11月11日に開示いたしました「2023年3月期第2四半期 決算補足説明資料」の記載内容に、社名の誤記載による一部訂正がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、訂正箇所には下線を付けております。

記

1. 訂正箇所

P16 3-1. 中分子の最近の動向

2. 訂正内容

(修正前)	(修正後)
・ ヤマト <u>化学</u> 株式会社との共同開発 装置名称 : 固相合成装置SPS-30	・ ヤマト <u>科学</u> 株式会社との共同開発 装置名称 : 固相合成装置 SPS-30

以 上



神戸天然物化学株式会社

**2023年3月期第2四半期
決算補足説明資料**

証券コード：6568

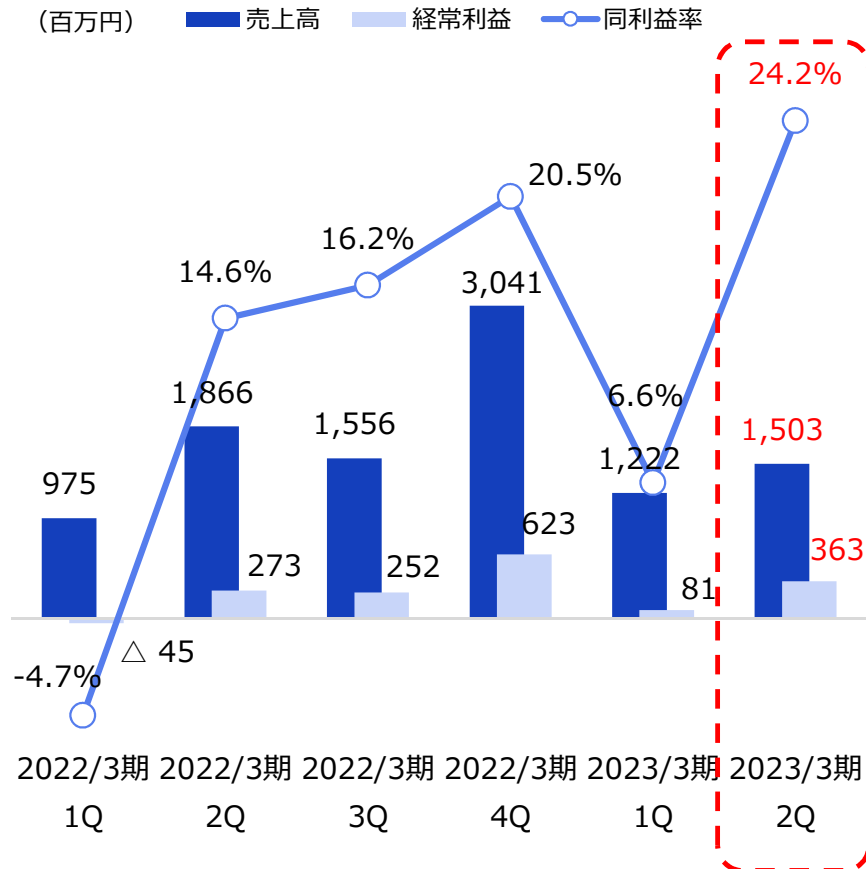
2022年11月11日



エグゼクティブサマリー①

- 2Q累計および単独で減収増益
- 製品構成の改善や生産効率の向上が進捗し、四半期の経常利益率、EBITDAマージンは過去最高更新
- 機能材料分野の量産ステージ分野が上期の売上、利益ともに牽引

四半期推移



ステージ別需要分野別業況マトリックス

	機材	医薬	バイオ
量産	製品構成改善進捗 一部製品で在庫調整発生	下期出荷製品の生産に注力 一部製品で納期ズレ	一部主力製品で単価見直し 収益性向上
開発	ステージアップの影響で減収	中分子関連テーマが拡大	需要好調
研究	需要好調		



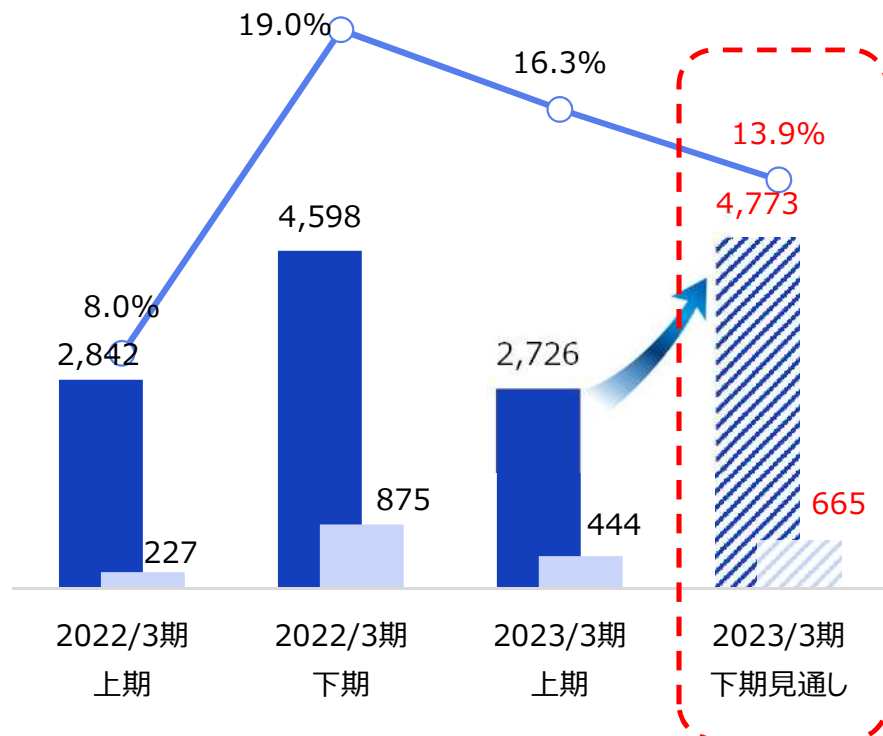
エグゼクティブサマリー②

- 通期見通しは事業環境の先行不透明感から据置き
- 下期の見通しは医薬やバイオが牽引して進捗。通年では例年通り、下期偏重を想定
- 現時点での受注は好調で通期超過は目前に

半期別業績推移

(百万円)

■ 売上高 ■ 経常利益 ● 同利益率

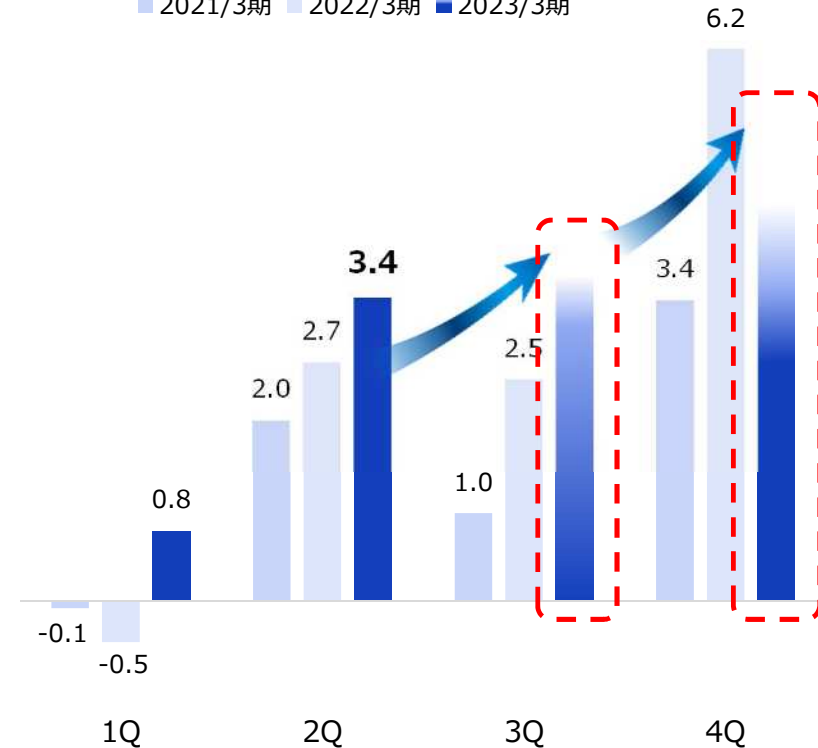


四半期別営業利益

(億円)

(2023/3Q以降は想定)

■ 2021/3期 ■ 2022/3期 ■ 2023/3期





1. 2023年3月期2Q決算概要



1-1. 2023/3期2Q累計経営成績

- 2Q累計業績は売上高が4.1%減となるものの、経常利益は約2倍。製品構成の改善が増益の主因となり、EBITDAマージンは31%に上昇。
- 分野別では機能材料の量産とバイオの開発が好調に推移した一方、医薬は下期販売を見込む

経営成績の推移

(百万円)	2021/3期	2022/3期		2023/3期		前年比較		2023/3期 進捗率
		2Q累計	通期	2Q累計	通期見通し	差異	変化率	
売上高	6,029	2,842	7,440	2,726	7,500	△115	△4.1%	36.4%
機能材料分野	2,150	1,185	2,858	1,316	2,450	+130	+11.0%	53.7%
医薬分野	2,937	1,032	3,286	838	3,580	△194	△18.8%	23.4%
バイオ分野	940	623	1,295	571	1,470	△52	△8.4%	38.9%
営業利益	635	222	1,094	421	1,100	+199	+89.4%	38.3%
経常利益	677	227	1,102	444	1,110	+217	+95.8%	40.1%
経常利益率	11.2%	8.0%	14.8%	16.3%	14.8%		+8.3pp	—
当期純利益	399	85	643	307	770	+222	+3.6倍	40.0%
EBITDA*	1,575	657	2,023	855	2,036	+198	+30.1%	42.0%
EBITDAマージン	26.1%	23.1%	27.2%	31.4%	27.2%		+8.2pp	—

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



1-2. 四半期別経営成績

- 2Q単独で見れば、EBITDAマージン（四半期ベース）で過去最高の37%超を記録
- 機能材料は医薬関連材料が好調。医薬は低分子で在庫の積み増しに注力する一方、中分子が徐々にビジネスとして成長しはじめる。バイオ分野では主力製品において利益構造改善が寄与

四半期別経営成績の推移

(百万円)	2021/3期				2022/3期				2023/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	1,064	1,525	1,325	2,113	975	1,866	1,556	3,041	1,222	1,503
機能材料	494	638	586	432	468	717	718	954	712	603
医薬	476	631	566	1,262	228	804	588	1,665	284	553
バイオ	93	255	173	418	278	344	250	421	224	346
営業利益	△8	204	99	339	△46	269	250	621	79	342
経常利益	12	215	94	354	△45	273	252	623	81	363
経常利益率	1.2%	14.1%	7.1%	16.8%	△4.7%	14.6%	16.2%	20.5%	+6.6%	24.2%
当期純利益	3	164	△5	237	△104	189	168	389	51	256
EBITDA*	237	428	319	590	168	488	493	872	293	562
EBITDAマージン	22.3%	28.1%	24.1%	27.9%	17.3%	26.2%	31.7%	28.7%	24.0%	37.4%

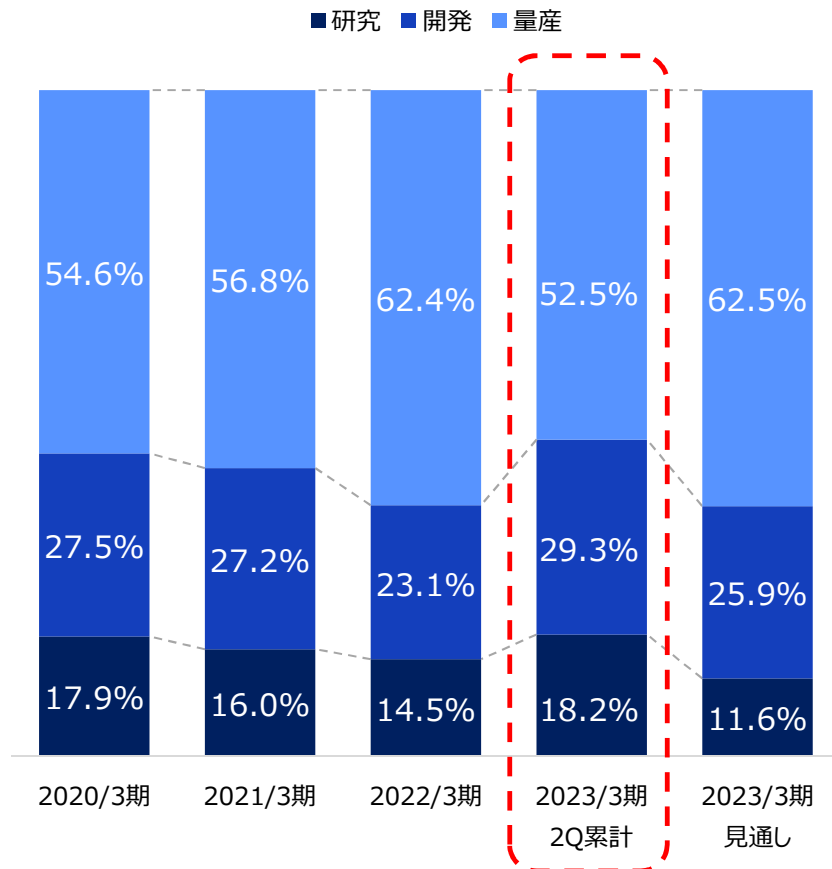
* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出



1-3. ステージ別売上状況

- 量産ステージの比率は2023年/3期見通しに対し低く推移するも、下期の医薬、バイオの売上で再拡大する見込み
- 開発ステージはバイオで引き合い好調である一方、機材でステージアップなどの影響もあり
- 研究ステージは医薬などで需要が好調に推移

ステージ別売上比率



- 機能材料分野
一部エレクトロニクス関連材料では在庫調整発生
一方、同分野で需要が伸びる製品も発生
医薬関連材料の量産ステージ製品が好調
- 医薬分野
大型の開発ステージ案件が今期は受注無し
研究分野の需要が強く売上伸長
主力の量産ステージは下期に集中
- バイオ分野
量産ステージ案件は堅調
開発ステージで中程度の案件数が増加傾向



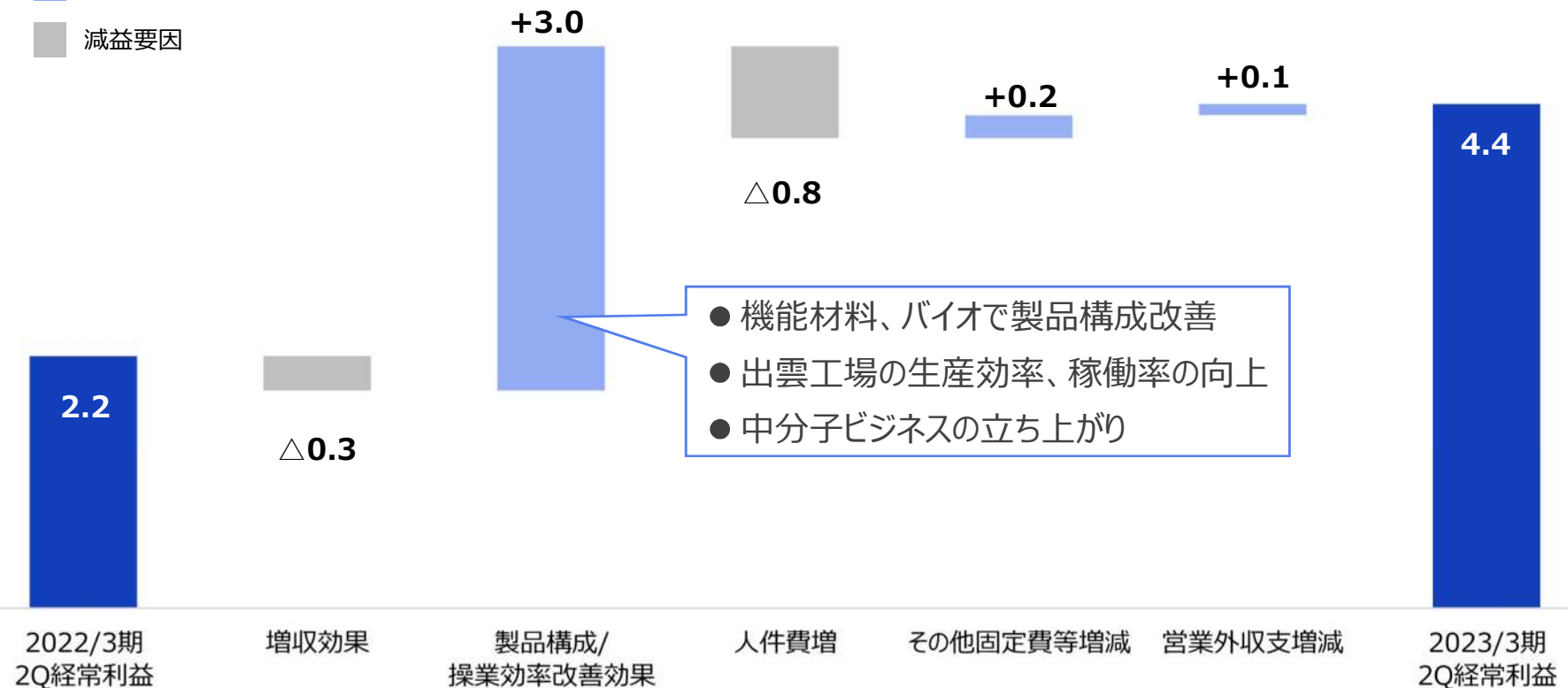
1-4. 経常利益 増減要因分析

- 医薬・バイオ分野での減収や人件費増などは、製品構成の変更や生産効率の向上による利益率の改善さらには製造設備稼働率の改善で吸収し、経常利益は前年比で2倍に成長

2023年3月期2Q経常利益の増減要因

(億円)

■ 増益要因
■ 減益要因





1-5. 2023/3期2Q末 財政状態

- 下期売上予定の在庫膨らむも、売掛金減少によりバランスシートはややスリム化
- 出雲工場拡充など設備投資額は5.8億円を計上
- 有利子負債も順調に圧縮し、実質無借金経営を継続。自己資本比率80%超の盤石な状況で次なる成長に備える

財政状態の推移

(百万円)	2021/3期	2022/3期	2023/3期2Q	前期末差異
流動資産	5,137	6,347	5,515	△832
現預金	1,962	1,973	1,619	△353
売上債権	1,141	2,519	977	△1,541
棚卸資産	1,742	1,771	2,709	+937
固定資産	7,643	7,604	7,584	△20
総資産	12,780	13,951	13,099	△852
負債	2,660	3,376	2,518	△858
有利子負債	1,443	1,676	1,256	△419
未払金/未払税	431	827	341	△486
純資産	10,120	10,575	10,581	+6
負債純資産合計	12,780	13,951	13,099	△852

前期末発生の上
売上債権回収

医薬量産案件の在庫増

設備投資額：5.8億円
減価償却費：4.3億円

有利子負債は順調に圧縮

未払費用、未払税
などの支払い進捗

自己資本比率80.8%



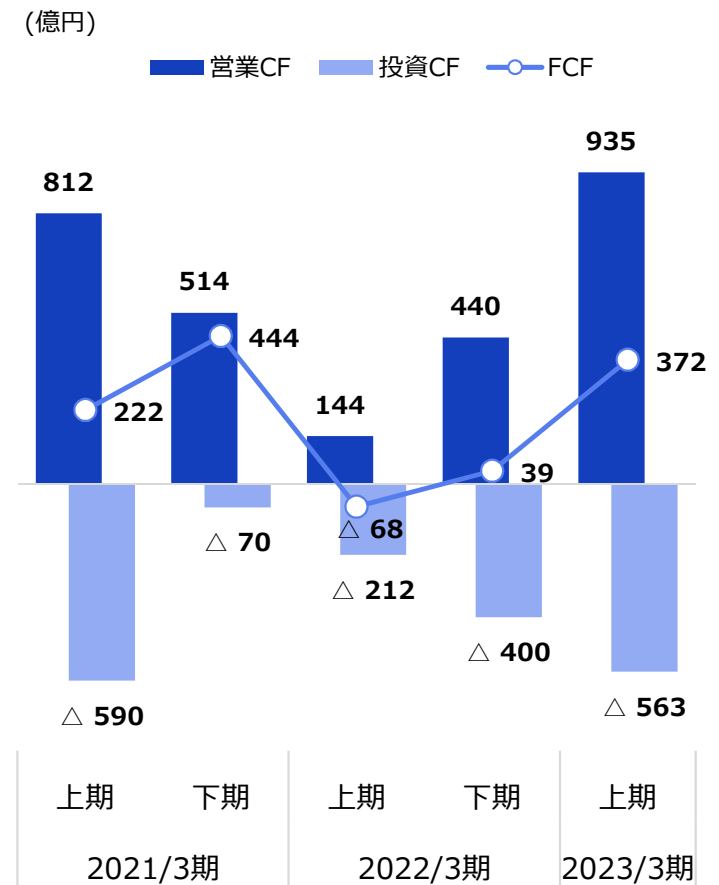
1-6. 2023/3期2Q累計 キャッシュフローの状況

- 上期のFCFは大幅拡大。設備投資支払は高水準続くも、売上債権の回収進捗など営業CFの拡大が貢献。半期9億円超の営業CF確保は過去最高
- FCFは借入金圧縮に充当。財務健全性を一層高め、将来の投資に向けて財務余力を充実

キャッシュフロー推移

(百万円)	2022/3期		2023/3期	
	上期	下期	上期	前年比
営業CF	144	440	935	+790
税前当期利益	126	790	444	+318
減価償却費	434	494	433	△0
売上債権/仕入債務増減	391	△1,747	1,563	+1,172
棚卸資産増減	△663	633	△937	△274
投資CF	△212	△400	△563	△350
固定資産取得	△433	△400	△584	△151
FCF	△68	39	372	+440
財務CF	△374	413	△726	△352
借入金増減等	△179	413	△419	△239
配当金の支払額	△193	△0	△194	△0

* FCF=営業CF+投資CF で算出





2. 2023年3月期通期見通し



2-1. 2023/3期通期見通し

- 海外からの原料調達難や不透明要因増大などを勘案し、通期見通しは据置き
- その結果、下期だけを見れば、前年比増収減益を想定。ただし、下期の売上集中傾向やそれに伴う利益率改善の可能性を考えれば、現時点では保守的なスタンスの見通しと認識

2023年3月期見通し

(百万円)	2021/3期 下期	2022/3期			2023/3期			
		上期	下期	通期	上期	下期見通し	下期 対前年差異	通期
売上高	3,439	2,842	4,598	7,440	2,726	4,773	+174	7,500
機能材料分野	1,018	1,185	1,672	2,858	1,316	1,134	△540	2,450
医薬分野	1,829	1,032	2,253	3,286	838	2,743	+488	3,580
バイオ分野	591	623	671	1,295	571	898	+227	1,470
営業利益	438	222	871	1,094	421	679	△194	1,100
経常利益	449	227	875	1,102	444	665	△210	1,110
経常利益率	13.1%	8.0%	19.0%	14.8%	16.3%	13.9%	△5.1pp	14.8%
当期純利益	231	85	558	643	307	463	△95	770
EBITDA*	909	657	1,366	2,023	855	1,182	-	2,036
EBITDAマージン*	26.4%	23.1%	29.7%	27.2%	31.4%	24.7%	-	27.2%

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出

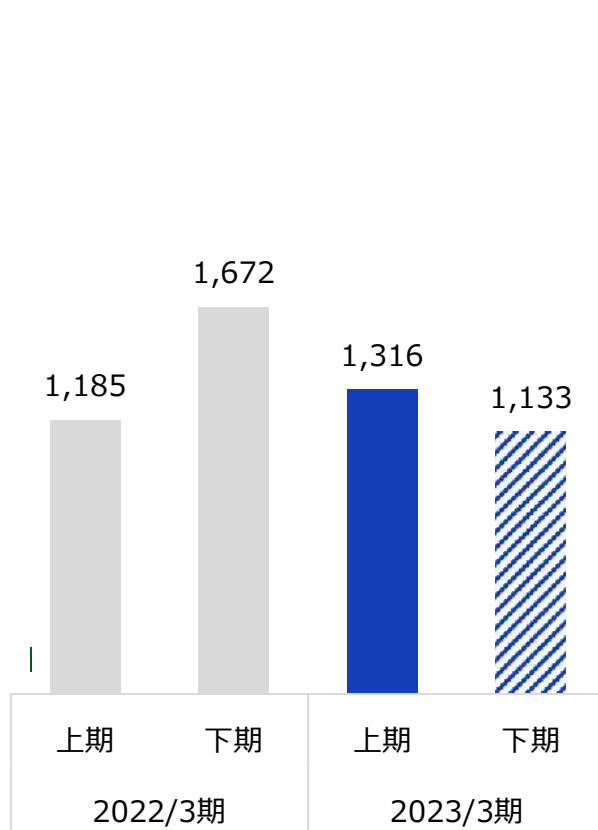


2-2. 分野別売上高推移

- 下期は出荷の集中する医薬分野の売上が伸長。これは例年の傾向ながら、今期はより下期偏重型となる見通し。バイオも今期は同様の傾向を想定
- 機能材料のみは下期偏重を想定せず。在庫調整局面の長期化した場合も他製品の需要が強く、当社への影響は小さいと見通す

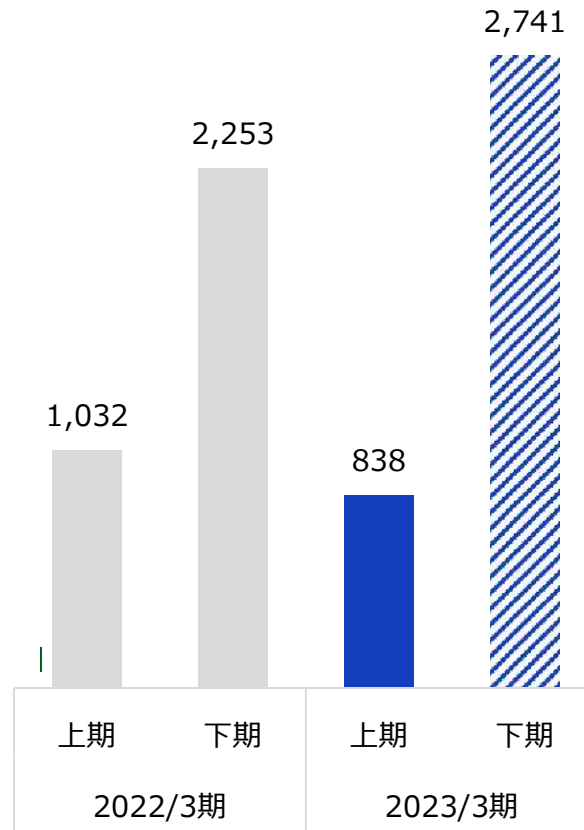
機能材料分野

(百万円)



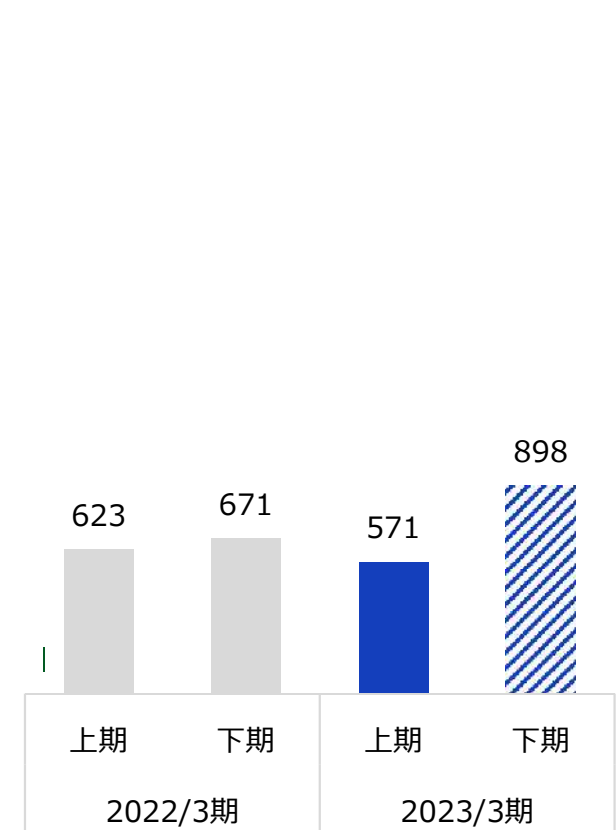
医薬分野

(百万円)



バイオ分野

(百万円)

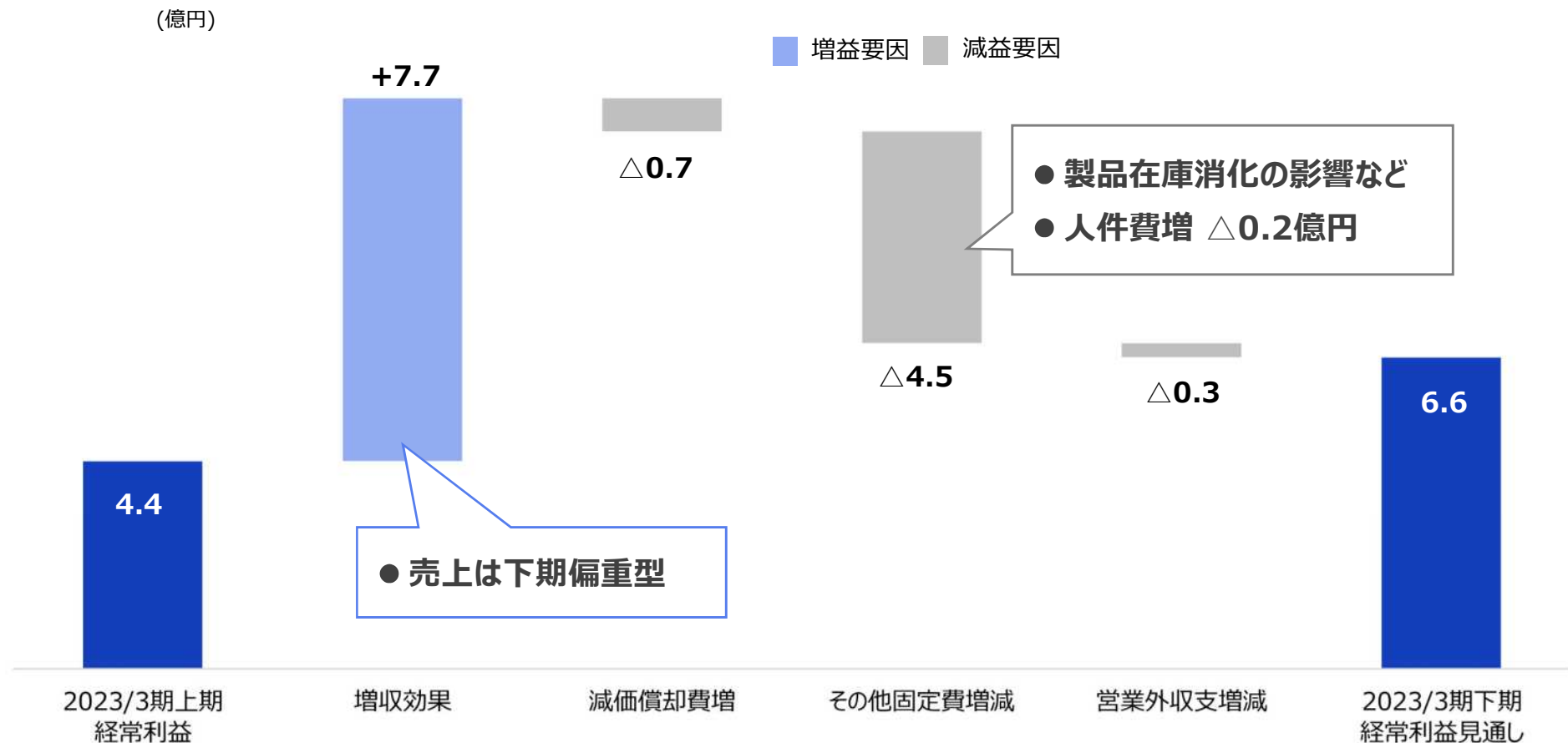




2-3. 2023年3月期下期経常利益 増減要因分析見通し

- 下期経常利益は上期に対して2.2億円の増益を想定
- 投資拡大による償却負担増加や製品在庫の消化が影響すると想定するが、下期偏重型売上の増収効果が増益の牽引役となる見通し

2023年3月期上期対下期 経常利益増減要因分析見通し

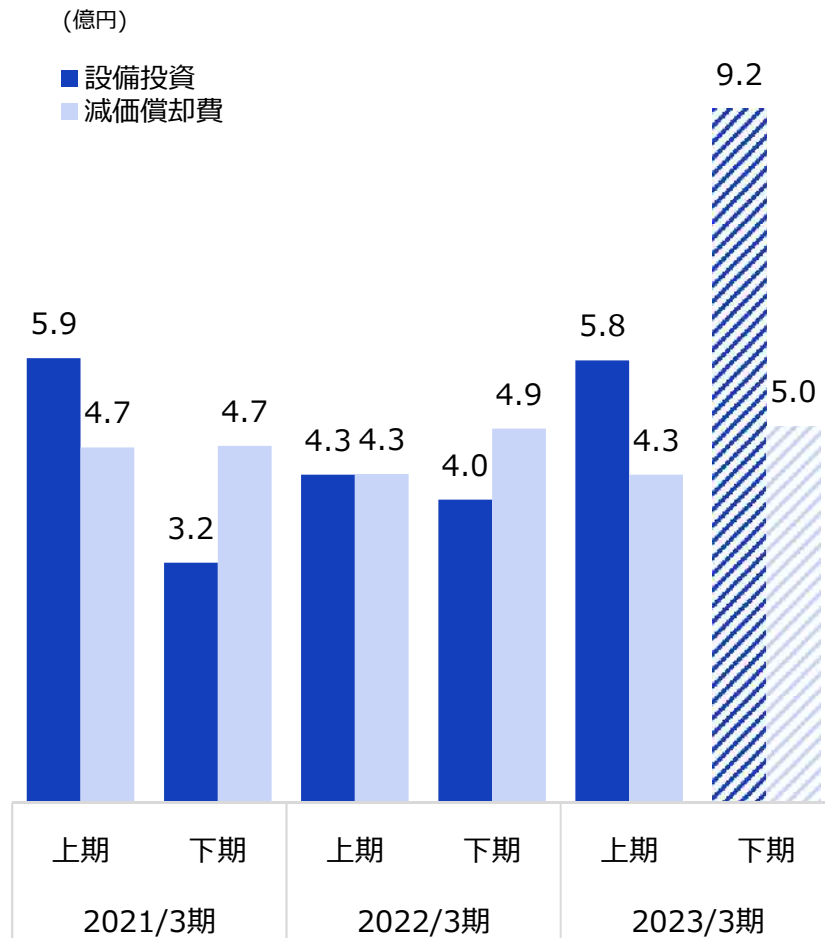




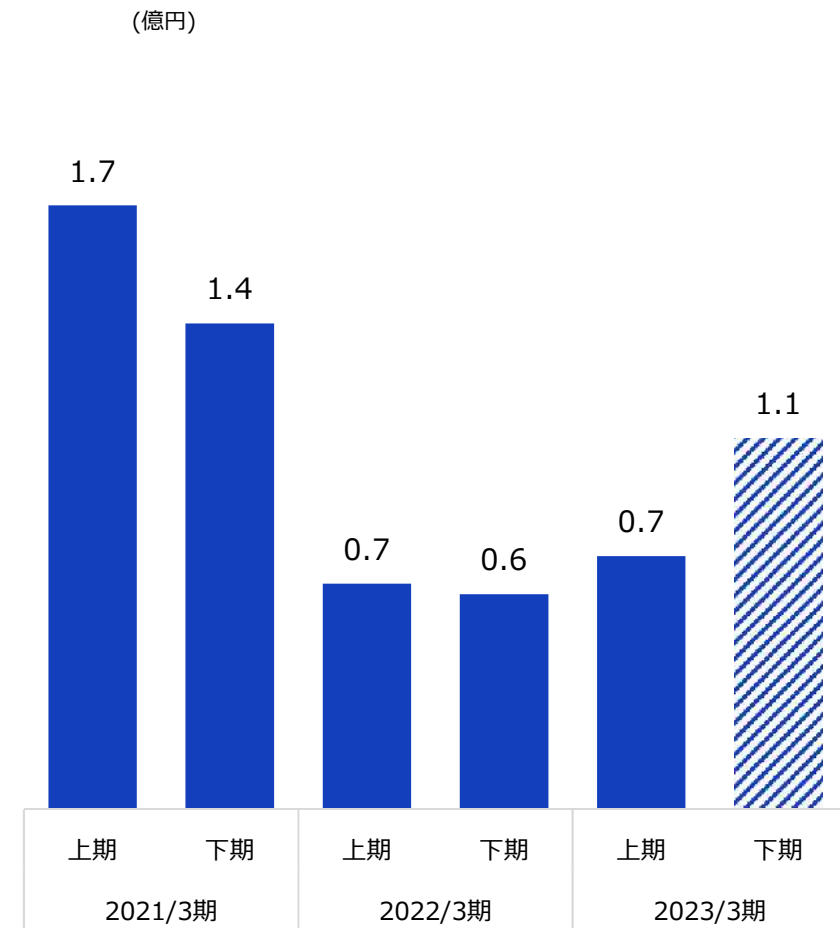
2-4. 設備投資・研究開発計画

- 出雲工場拡充に向けての設備投資（支払ベース）は今下期から本格化。高水準の投資は今後2年は継続する見通し
- 研究開発も、中分子・低分子医薬などバイオ・医薬領域を中心に強化を継続する計画

設備投資と減価償却費の推移(CFベース)



研究開発費の推移





3. トピックス



3-1. 中分子の最近の動向

- ヤマト科学株式会社と共同で開発した大量固相合成装置が2年近くの準備期間を経て始動
- 中分子事業の操業度改善に大きく寄与



本体正面 写真

- ヤマト科学株式会社との共同開発
装置名称 : 固相合成装置SPS-30
- 大量生産 (～kg/バッチ)スケールに対応
- 独自の攪拌方式の採用により、より均一な攪拌を可能とする



本体裏側タンクヤード 写真



3-2. 中分子の最近の動向

- 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）のプロジェクト参画をはじめ、寄稿依頼などが増加
- 当社の中分子ビジネスの認知度向上が進捗と推測

- 参画プロジェクト

- ✓ 「次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業（核酸医薬品実用化のための製造及び分析基盤技術開発）」（AMED）

※研究開発代表者（小比賀教授（大阪大学））の採択課題に分担研究開発機関として参画

- ✓ 「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」（AMED）

※シナジー拠点として採択された千葉大学（清野卓越教授）の企業ハブ・連携の企業として参画

- 寄稿

- ✓ 月間「細胞」5月号「創薬から製造までの核酸医薬シームレスソリューション事業」（2020年）

- 参考資料

- ✓ 「ペプチド医薬品および核酸医薬品 CDMO 業界の現状と展望」（日本政策投資銀行）

※当社がCDMOとして紹介、言及されております

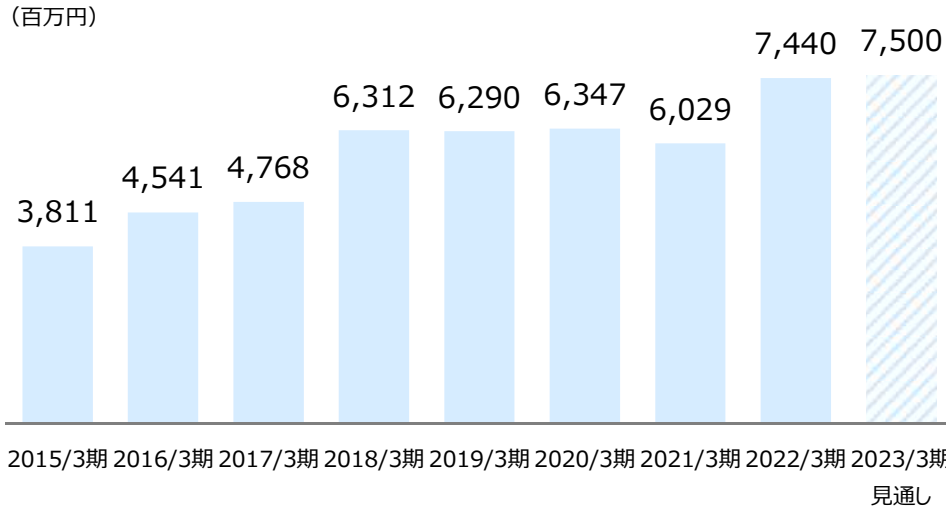


4. Appendix

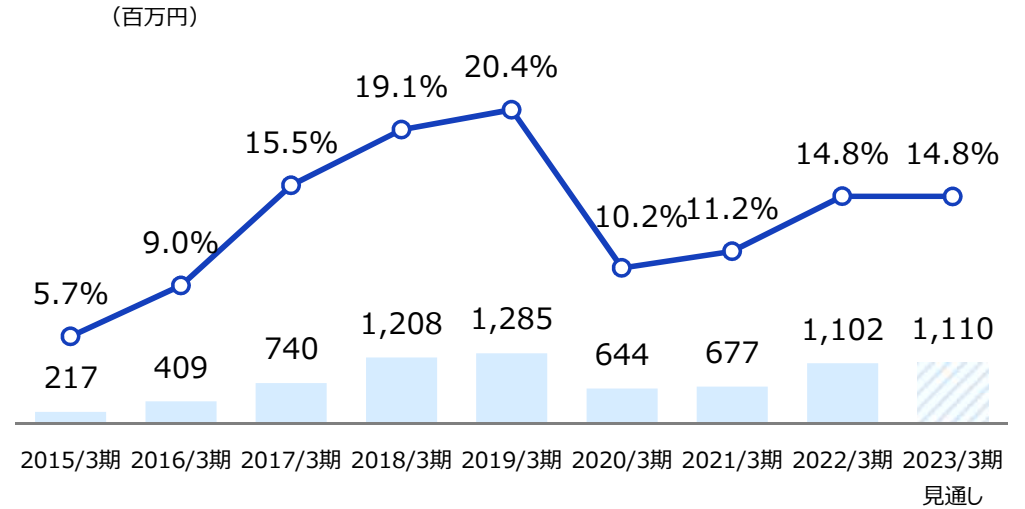


業績推移

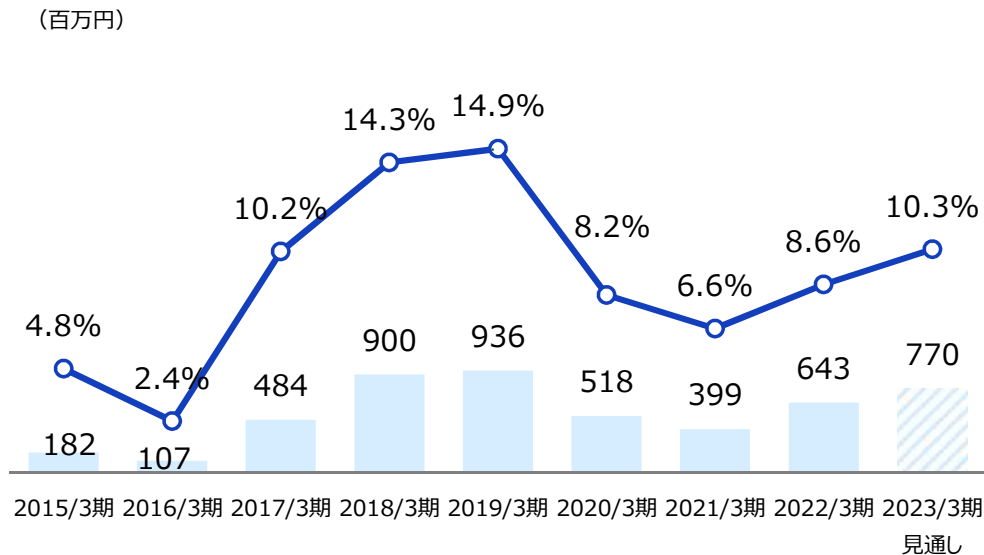
売上高



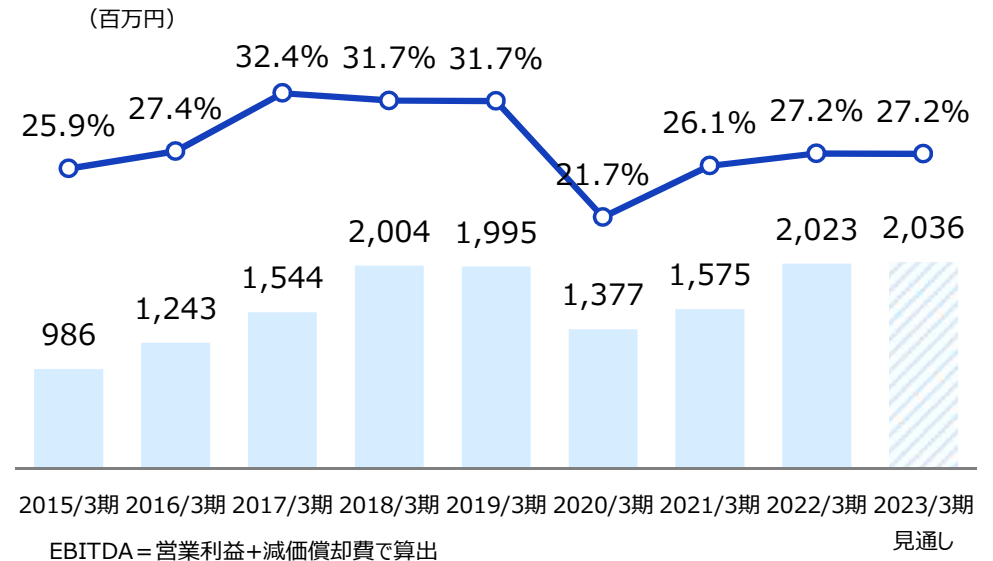
経常利益・経常利益率



当期純利益・当期純利益率



EBITDA・EBITDAマージン





財務ハイライト

項目 (単体)	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期2Q
売上高 (百万円)	6,312	6,290	6,347	6,029	7,440	2,726
経常利益 (百万円)	1,208	1,285	644	677	1,102	444
当期純利益 (百万円)	900	936	518	399	643	307
EBITDA* (百万円)	2,004	1,995	1,377	1,575	2,023	855
売上高経常利益率	19.1%	20.4%	10.2%	11.2%	14.8%	16.3%
売上高当期純利益率	14.3%	14.9%	8.2%	6.6%	8.6%	11.3%
EBITDAマージン*	31.7%	31.7%	21.7%	26.1%	27.2%	31.4%
現金及び預金 (百万円)	5,413	3,072	1,476	1,962	1,973	1,619
有利子負債 (百万円)	2,256	978	1,428	1,443	1,676	1,256
純資産額 (百万円)	8,736	9,454	9,827	10,120	10,575	10,581
総資産額 (百万円)	12,688	12,002	12,770	12,780	13,951	13,099
自己資本比率	68.9%	78.8%	77.0%	79.2%	75.8%	80.8%
配当性向	21.4%	20.6%	37.3%	48.5%	30.2%	-
役員・従業員数	254人	270人	285人	293人	299人	-

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



沿革

- 1985年 ● 神戸市西区に神戸天然物化学株式会社設立
- 1988年 ● 岩岡工場開設（兵庫県神戸市）
- 1993年 ● 市川研究所開設（兵庫県神崎郡）
- 2001年 ● 出雲第一工場開設（島根県出雲市）
- 2002年 ● 神戸研究所開設（兵庫県神戸市）
- 2003年 ● 神戸工場開設（兵庫県神戸市）
- 2005年 ● KNCバイオリサーチセンター開設（兵庫県神戸市）
- 2007年 ● つくば大学内にKNC-筑波ラボラトリー開設（2012年閉鎖）
- 2009年 ● 出雲第二工場開設（島根県出雲市）
- 2013年 ● 出雲第一工場内に医薬品原薬精製・粉碎設備棟を建設
- 2014年 ● KNCバイオリサーチセンター内に培養新棟を建設
- 2015年 ● 出雲第一工場内にペプチド・核酸原薬工場棟を建設
- 2017年 ● 出雲第一工場内に新品質管理棟を建設
- 2018年 ● 東証マザーズ上場
- 2019年 ● 本社・神戸研究所開設・移転
- 2020年 ● 出雲第一工場内に原薬精製棟を建設
- 2022年 ● 出雲第二工場品質管理棟着工
- 出雲第一工場立体自動倉庫（W-11）着工
- 東証グロース市場に移行



< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経営企画部 IR担当 078-955-9900 (代表) knc-ir@kncweb.co.jp